

身近な課題に取り組み生きる力を育む 地域で育むキャリア教育

きっかけは、ICT活用推進のために始めた希望生徒向けの講座でした。ツールを手にした生徒たちからやってみたい、と声が上がったのは校舎から毎日見上げる掛川城でのプロジェクションマッピング。地域の人たちと協働し、2年目には大きなイベントに成長しました。

生徒の「やりたい」から始まった 地域をPRする 掛川城プロジェクションマッピング

第19回 掛川西高校(静岡・県立)

取材・文／江森真矢子



校が位置するのは、天守閣のふもと、城内の「お花畑」とされた場所。城は市民にとって町のシンボルであり、掛川西高校の生徒たちにとっても高校生活を語るときに欠かせない風景だ。

**iPadを手にした生徒が
言い出した「やりたい」**

そんな城に、大型プロジェクターを使って映像を投影するプロジェクションマッピングをやりたい、イベントを開催して地域を盛り上げたい、という声をあげたのは今春卒業した生徒の一人。学校に導入したiPadや無線LAN環境の活用が進むようにと招いた専門家から、直接指導を受けていた生徒の有志グループに、ICT推進委員長の吉川牧人先生が「何をしたい?」と問いかけたときのことだった。「彼らには最初から『地域を盛り上げたい』という気持ちがあったんです。掛川市外から通っている生徒も多いのですが、伝統ある高校として地域の人たちが期待をしてくれている、応援してくれているということを生徒たちは感じています。だから、恩返しをしたいと思ったのです。何か楽しい

ことをしたい、だけではない発想が嬉しかったです」と吉川先生。

とはいえ、生徒と地域との接点はそれまでほとんどなく、進学で外に出たら戻ってくることも少ない。吉川先生自身も掛川の人たちとの関わりはまったくなかった。

**地域とのつながりづくり
教師が奔走**

生徒の志やよし、しかし、どうしたら実現するのか。そもそも掛川城は誰が管理しているのかすらわからないところから商工会議所を訪ね、市役所に連絡を取り、高価なプロジェクター手配に力を貸してくれそうな企業をあたりと吉川先生は動き始めた。

「市長、教育長はじめ、市役所にも企業にも卒業生がたくさんいます。毎日のように町に出ているら気づけば友達だらけ、みたいになっていました(笑)。私自身は卒業生でも掛川市民でもないのですが、しがらみがないからうまく話を進められることがあることもわかりました」

技術指導は専門家に依頼をした。吉川先生には、かつて女子バレーボー

幕末期の東海地震によって倒壊したまま明治を迎えた掛川城は、1994年、市民の願いが叶い140年ぶりに木造天守閣が再建された。掛川西高



写真提供／鈴木聖人



写真右から 勝又智彦さん、今野貴斗さん、中村宙貴さん、小杉勇翔さん(部長)、榛葉司さん、西岡玲於さん、吉川牧人先生(研修課長・ICT推進委員長)

■ 活動の様子



プロを招いた講座を開催



地域の人に協力を仰ぐ



掛川工業高校の生徒も協力



活動の様子はSNSでも発信

図1 プロジェクトの軌跡

2017年2月	iPad60台導入
2017年8月	ICT系の希望者向け講座開始
2017年12月	第1回掛川城PM
2018年2月	第2回掛川城PM(富士山の日)
2018年3月	ダンス部の公演に協力。第3回掛川城PM(掛川市主催桜まつりにて)
2018年5月	掛川市シティプロモーション市民協働事業採択
2018年7月	掛川市シティプロモーション市民協働会議参加
2018年10月	小・中学生向けPM講座
2018年11月	クラウドファンディングスタート
2018年12月	第4回掛川城PM
2019年3月	第5回掛川城PM(ラグビーワールドカップPR)

※「PM」はプロジェクトマネジメント

地域の大人との協働事業に発展

初年度のプロジェクトは2017年12月に無事、開催された。城の壁面も石垣も使って映し

エクトも、地域の人や専門家との最初のつながりは教員がつくるが、その後は生徒が直接やりとりできるように心がけている。

さらには大きく発展した。掛川市シティプロモーション市民協働事業に応募して採択され、クラウドファンディングでプロジェクト購入資金を募り、市の社会教育事業の一環として小・中学生向けの講座を開き子どもたちの作品も上映、掛川工業高校の生徒たちが機材設営に参加…など

生徒たちと地域の関わりはより広く、多様になった。

幅広い経験が 生徒個別の成長を促す

2年目の昨年度には有志グループの後をパソコン部が引き継ぎ、活動はさらに大きく発展した。掛川市シティプロモーション市民協働事業に応募して採択され、クラウドファンディングでプロジェクト購入資金を募り、市の社会教育事業の一環として小・中学生向けの講座を開き子どもたちの作品も上映、掛川工業高校の生徒たちが機材設営に参加…など

2年目の昨年12月に集まった観客は約2000人、掛川城プロジェクトは約2000人、掛川市の新しい文化となった。「制作中は、成功するかわからないし人が来てくれるとも思えなかつたので、ものすごい人があふれている光景を見て感動しました」「掛川は花火大会がなかったから、お城に花火の映像を映せたときは『地域の結束力ですれまでなかつたものを作れた』っていう感動がありました」「地元の人たちとやっていると、地域のつながりをすごく感じました」と生徒たちは言う。

彼らが得たのは地域とのつながりや貢献の実感だけではない。クラウドファンディングへの協力を求めて地元企業十数社へプレゼンに行った生徒は「大変だったけど達成したときは『気持ちには伝わる』って思いました」。別の生徒は「経験を積めたのが良かったです。企業の人と話すとか、ちょっと社会に出た感じで」。

School Data

1901年創立/普通科・理数科/生徒数974人(男子494人、女子480人)/進路状況(2018年度)大学、短大275人、専門学校4人、就職1人、その他37人